

萬葉集略解

七

柳田文庫

文庫11

A 104

11





18-1000-51

文庫 11  
A 104  
11

柳田泉文庫

48 10649

萬葉集卷第七

雜歌

詠天一首 詠月十八首 詠雲三首 詠雨二首 詠  
 山七首 詠岳一首 詠河十六首 詠露一首 詠花  
 一首 詠葉二首 詠蘿一首 詠草一首 詠鳥三首  
 思故鄉二首 詠井二首 詠倭琴一首 倭琴今  
倭琴誤 芳野  
 作歌五首 山背作歌五首 攝津作歌二十一首 羈  
 旅作歌九十首 問答歌四首 臨時作歌十二首 就  
 所發思三首 寄物發思一首 行路歌一首 旋頭歌  
 二十四首

譬喻歌

寄衣八首 寄絲一首 寄和琴一首 寄弓二首 寄



玉十六首 寄山五首 寄木八首 寄草十七首 寄  
 花七首 寄稻一首 寄鳥一首 寄獸一首 寄雲一  
 首 寄雷一首 寄雨二首 寄月四首 寄赤土一首  
 寄神二首 寄河七首 寄埋木一首 寄海九首  
 寄浦沙二首 寄藻四首 寄舩五首 旋頭歌一首  
 挽歌

雜挽十二首 或本歌一首 羈旅歌一首

一首 雜歌二首 雜歌一首 雜歌一首 雜歌三首  
 山十首 雜歌一首 雜歌十六首 雜歌一首 雜歌  
 雜歌一首 雜歌十六首 雜歌三首 雜歌二首 雜

此卷の古より流傳するものを知りて考の所記に  
 即雜歌

詠天

天海丹雲之波立月船星之林丹擲隱所見

あめのうみよくものちみたちつきのねほりのを

ちやんと海とえなせらるうらやと浪月と舟といひ星と林とちやんと  
 て擲隱といひつり人座多の心知るなり

右一首柿本朝臣入麻呂之歌集出

詠月

常者曾不念物字此月之過匿卷惜夕香裳

つねがかりおぼえぬものこのつきのまよかたれあくるまよひかた

常者曾不念物字此月之過匿卷惜夕香裳

そいとよみれば、幾十本まゝくハカマ不瑛、<sup>カマキリ</sup>よしかつてとよめれば、かくつ

大夫之弓上振起借高之野邊副清照月夜可聞

まはらむのゆきまふあつたののろくまふくしてさくくもか

らまねおこし編いそん序の、まき編らるのこまふくひくよふま、大和

はとねん、まふまふれまハ情くこまふく、まふくいつくまふく、

山未雨不知與歷月乎将出香登待尔居雨與曾降家留

やまのたふいそふつまふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

おまふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

明日之夕將照月夜者片因雨今夜雨因而夜長有

あまのゆひてらんつよが、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

あまのゆひてらんつよが、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

玉岳之小簾之間通獨居而見驗無暮月夜鴨

たまぐさのまふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

春日山押而照有此月者妹之庭母清有家里

かむか、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

海原之道遠鴨月讀明少夜者更下乍

うねらのみちとつよが、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、まふく、

遠うらゝもやうらゝ

百師木之大宮人之退出而遊今夜之月清左

こゝろのありみやいひのまのうらゝあそびのついでにやんせ

宮中よりあそびとまつるをていつくばあそびのついでにやんせ

こゝろのありみやいひ

夜干玉之夜渡月乎将留爾西山邊爾塞毛有糠毛

ぬぐひまのよわらひしきとてあそびにのたまふせきにあそび

あそびのありみやいひ

此月之此間来者且今跡香毛妹之出立待乍将有

このまのこゝろきつれはまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

まのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

これがまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

真十鏡可照月乎白妙乃雲香隱流天津露鴨

まろかゝるしきまろかゝるしきまろかゝるしきまろかゝるしき

まろかゝるしきまろかゝるしきまろかゝるしきまろかゝるしき

まろかゝるしき

久方乃天照月者神代爾加出反等六年者經去乍

ひさかたのあまてらすまろかゝるしきまろかゝるしき

年と終く月のまのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

まろかゝるしき

烏玉之夜渡月乎何怜吾居袖爾露曾置爾鷄類

ぬぐひまのよわらひしきとてあそびにのたまふせきにあそび

わづらひのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ

水底之玉障清可見裳照月夜鴨夜之深去者

みづのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろのこゝろ



五ノ下有  
ノ字ハ折  
ニ本ニ  
テ除

痛是河河浪之奴卷目之由槻我高仁雲居立良志

あはれいづかきわきしんあまきむのゆづきごうけふくもあつり

あつり川ゆづきの嶽大和城上形古る記麻岐牟久能比志言乃美夜

しんりいふかまきむの川へさゆ多しやあひちる記和岐榮能如多

由久毛韋多知久母しんりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

活有の字もまきとよしんり

足引之山河之瀬之響苗雨弓月高雲立渡

あひききのやまのせのたのもしんりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

右二首しんりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

右二首柿本朝臣人麻呂之歌集出

大海雨島毛不在雨海原絶塔浪雨立有白雲

おほらみよあまきむあつりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

万解七 五

名ヲ者  
ニ係

吾妹子之赤裳裙之将染涅今日之霖霖雨吾共所沾名

わき子このあつりものまきむのひづちあつりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

沾者しんりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

かみあつりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

かんあつりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり

可融雨者莫零吾妹子之形見之服吾下雨著有

とやあつりいづかきむのゆづきごうけふくもあつり



詠山

動神之音耳聞卷向之檜原山乎今日見鶴鴨

下はまきしる衣まぎぬれゆるべくかきうらむとし著有とくふりつて

ちうめみくの松何

三毛侶之其山奈美雨兒等手乎卷向山者繼之宜霜

みまろのそのやまわみまろのうきとまきしむくやまのまきのみよりい

此らもろの二輪山へ考まきし山まの山をこころごとくとわらば

下は山をのづきしる衣まぎぬれゆるべくかきうらむとし著有とくふりつて

又のよりしる衣まぎぬれゆるべくかきうらむとし著有とくふりつて

我衣色服染味酒三室山黄葉為在

わのころもいろのそりたうらむまきしむくやまのまきみぢりふりつ

室も云色服ハ服色と云るがほろく下よるわれる人、こは三室山ハかみ  
ぢりつるも衣の色もさかんといふ、在とあるを必けりと判べきまきあを考  
みまろといひつり

右三首柿本朝臣人麻呂之歌集出

二諸就三輪山見者隠口乃始瀨之檜原所念鴨

みまろつるみまもたまみれいこわらむのたつせのいづらおもひがゆるこのも

みまろつるの例しかなれは就ハ能のほろく、まらろのとこらとのうら

ま、又ま六三諸若麻原山と云はるこころは是れ、まらろつる、みまの

柿原と云る、左つせの柿原と云はるいづらつる

昔者之事波不知乎我見而毛久成奴天之香具山

いふへのことまらるぬとわれはるも、いさしきくちちめあえのかがやま

吾勢子乎乞許世山登人者雖云君毛不來益山之名爾有

之

わがやまの山をたふしむるに  
こせハ神名帳大和葛上郡巨勢山口神社を  
しりしに  
山の名のみを  
まきらのまきしよるる

木道爾社妹山在云櫛上二上山母妹許曾有来

まきらふころいもやまのわらひとみくけの  
けりし本國の妹山の山を  
けりしといふも  
いよへの  
や、櫛の上一本三の

万解七 七

今野

三ハまの  
神社  
まの  
まの

詠岳

片崗之此向峯推蒔者今年夏之隈爾將比疑

かまののこのむらつをよまひまの

神名帳葛下郡片岡坐神社  
まの

詠河

卷向之病足之川由往水之絶事無又反将見

まきらむくの

病ハ痛の字の得はよふいぢつちり、お水のやういづつと思ふ、又久  
月人ハ別て山川のさまと信ずらんとき

黒玉之夜去来者卷向之川音高之母荒足鴨疾

ぬだるまのよるさるるれはまきししのかたたりしあはれいひま

山の嵐のそやくれがま川音のましくやゆさうりて

右二首柿本朝臣人麻呂之歌集出

大王之御笠山之帶爾為流細谷川之音乃清也

おほきさみのみゑのりやまのまじよせんほそしんやいのちのさやの

大さみの花河、二笠山ハ添上歌、細谷川春日山へ、細谷川ハ地名あり、

古々集ハ一二のたまふうきひの中山とて載也、後ハほ

今敷者見目屋跡念之三芳野之大川余抒字今日見鶴

鴨

いまくみめやともひみよぬのおかかえよとくくみつるのも

いまくみめを今ハくししハ助解、けき下ハ玉拾之久、又そがしハ宿之ス

いづくハ助解まこととそまひし、今ハ又ハ入るるすハまことハかりい

一トハゆは河ととも入つるよとよらこづと

馬並而三芳野河乎欲見打越来而曾瀧雨遊鶴

うまわらぬみよぬのいそみちくほやうもこをきこぞたぎよあそひつる

山後とこるる細くまはく、よら河の尾のりハむづと、秋句とマウウの

よらあつてんべー

音聞目者未見吉野河六田之與抒乎今日見鶴鴨

おとよみしめふらみよぬよらむむつものよととくくみつるのも

六田とくむたとりよと

河豆鳴清川原乎今日見而者何時可越来而見尔徳食

かたづつわくきよまきかいらうそくをみしていひのこるまてみつゝまのたむ  
今もえく又いらつらんといふ、まぢりんはまをりよらるる白浪えんつ  
まあせんしよある目あまをうさるれば、こゝも又再ひあうとてつ  
めせんといふまきよあり、こゝえきてはよりの山を越すもく

泊瀬川白木綿花雨墮多藝都瀬清跡見雨来之吾乎

左つせがえ志らゆよれおちるまづせをよけみとみようこれぞ

白木綿花のやうにうつくしゆらあはれまじりわれをのそハゆ舞之、ま

六ちやまのこゝかこゝまのあまをまじりわそのまゝとて

新くまの山も白ゆよあまをうさるるまの川これあはれ

泊瀬川流水尾之湍平早井提越浪之音之清久

はつせがえたづるみそのせをよけみとみよのわたのまけく

水尾ハ水脈まき水毎とり、あまの堰之改より久ハ左うよよの傍者

熊が能  
二保

それがさのほまきまけきとまきまをりて、ゆりまも湍実久とあ  
れがくまのりかまへハ大和州の傍

佐檜乃熊檜隈川之瀬平早君之手取者將縁言毛耗

さいのくまののくまかまのせをよけみとみよのわたのまけく

和名州大和高右那檜隈此乃え末さハまの田まの發落うていぬらうと

まぬいつ、みうまのよらるるまの敷く、ほをほる所敷のまきれが

まどるまばそれよよわく人のいひまんうと

湯種時荒木之小田矣求跡足結出所沾此水之湍雨

ゆづまきあまきのをまきわてめんあゆいでぬれぬこのかのせよ

ゆづまき齋種ハ水口まきまけは、あまきハ津名帳大和守智那

荒木津社ろまこ、又ハ壱田といふ、あゆひハ皇極紀まよ、やこのの

まのひろせとわらん阿庸比拖豆矩梨ヨヒヒまこまき、まを信ふ

そのく和名抄行纏本朝式云脛中俗云波岐とて敷くあゆひて歩くぬ  
まぬまぬといふ求の御糸ごいととて浮きあふらん考べし、是れ神の命といふ  
人の有りと神物とせんといふ好られしとてくまのや、宮をまぬ  
まのほろく、あゆひぬれぬまぬといふ

古毛如此聞下哉徳兼此古河之清瀬之音矣

いふへがくまつたやまぬびんこのあまののまゆいせのといふ  
あま川に初瀬とて石よりもまづいれよ、古くよ、河の瀬のまゆい  
てやい、まゆまゆとてくまづいつんとく

波瀬今為妹字浦若三去来岸去河之音之清左

をねのつゝいませといふまづわみいせがたのねのまゆいせ  
神名帳大和添上郡岸川堂大神御子神社とて、をねのつゝいませよ  
もいふ、まゆまゆとてくまづいつんとく

なるまゆいせの川のまゆいせはあまのまゆいせといふ、巨勢のまゆいせ  
あせといふけいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
まゆまゆいせといふけいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
いづりみまゆとてくまづいつんとく

此小川白氣結瀧至八信井上爾事上不為友

このまゆいせはまゆいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
流え流えとてくまづいつんとく、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
ま井水のまゆいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
鳴るの十握の銀とてくまづいつんとく、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
あまのつゝいせのまゆいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
まゆまゆのまゆいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ  
まゆまゆのまゆいせといふ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆのまゆいせ、まゆまゆ

紐ヲ紐  
二誤

吾紐乎妹手以而結八川又還見萬代左右荷

わづしをもいもあぐもあぐゆややははまらうらんよるづよまてに

後八川古里のゆきや、こゝれの紐と紐がもよもよとてゆきかゝる

序之後八川ゆやうとてこゝれまねえ原ゆやうとて

妹之紐結八川内乎古之并人見等此乎誰知

いものいもゆはかあといものよまをみまてこそたれのしる

并人四河みまひとあれど併人の信るべし、古里の地はま一併人のよ

地心川とよとてとていりともみりま九古人の愛ま人の世いん

いしあるはくも信るあされいりいりや、よまて人えまていし信れ

そくと信るよと知といまあうんの下向信るもむ行考べし

詠露

烏玉之吾黒髪雨落名積天之露霜取者消尔

新ヲ切  
二誤

ぬだるまのわつころかみよふわつむあめのつゆもとれなきるし

まづいし信るよと知といまあうんの下向信るもむ行考べし

若二成むああうとて信るあうんの下向信るもむ行考べし

いりいりや

詠花

島廻為等磯雨見之花風吹而波者雖縁不取不止

あさるしとといもあみかせもまてたのよはよるしとてまて

あさるしとといもあみかせもまてたのよはよるしとてまて

あさるしとといもあみかせもまてたのよはよるしとてまて

詠葉

古爾有險人母如吾等架彌和乃檜原爾柿頭折兼

いりいりやあさるしとといもあみかせもまてたのよはよるしとてまて

かづのいふがえ、吾等、いこひのうらみまあはくち創をい、さてはま  
こころん人ハまもへん、くよふるたふへ

往川之過去人之手不折者裏觸立三和之檜原者

ゆかしのまきまじひのたそねいづれそらみこのひだりうか

ゆ川の楢のこころん人ハうらむる古の人とらうらむれはむ

右二首柿本朝臣人麻呂之歌集出

詠蘿

三芳野之青根我峯之蘿席誰將織經緯無二

みよぬのあをねのふねのさげむるこれのおうらんたてむきたうい

あをねの青根とて一の名のあうらむれはむ又藤とまねうらむら

くらりらら花とあうらむくさむせるとさ

詠草

妹所等我通路細竹為酢寸我通藤細竹原

いがちとわのあひのちの志ぬまきこれかあをねのさげむらう

妹がうハ妹が許ん志ぬハ志ぬとゆら、細竹ハ借字と、これのハハ姉

を路のなまきまけされハたひまきとれとさう、志ぬハハ別志の

いかにい

詠鳥

山際雨渡秋沙乃往将居其河瀬雨浪立勿湯目

やまのまふわらあきまのゆきとるんそのかそのせよまみまゆめ

あきまハ俗あつと、いよハ息ハ、そ名抄れ改、浪のらる月の光

を横きれてわらあきまのまけらとさうとよまう、或人抄は

まへハハハと藤とあひと、いづう、いひのさうと抄り、るのあま

いせんのの藤のほらとさうとさ

佐保河之清河原雨鳴知鳥河津跡二忘金都毛

さいほのこのきよかわのあまのりゅうなるけり鳥のこゝろをわすれぬとも

あまのこのけのむらさきのうらみはれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

あまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

らび河津のこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

佐保河雨小驟千鳥夜三更而雨音聞者宿不難雨

さいほのあまのりゅうのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

この句はさよふとびの小驟の羽打まんのあまのこゝろをわすれぬとも

この句はさよふとびの小驟の羽打まんのあまのこゝろをわすれぬとも

思故郷

清湍雨千鳥妻喚山際雨霞立良武甘南備乃里

きよたにのあまのりゅうのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

まんとつとあまのこゝろをわすれぬとも

年月毛未經雨明日香河湍瀬由渡之石走無

としづきいよふへたぐみあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

あまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

いづれをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

詠井

隕田寸津走井水之清有者度者吾者去不勝可聞

あまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

あまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

あまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬともあまのこゝろをわすれぬとも

あまのこゝろをわすれぬとも

安志妣成榮之君之穿之井之石井之水者雖飲不飽鴨



あはれも物言は井とほまゝ一人の泣きとられねど  
あはれも物言は井とほまゝ一人の泣きとられねど

詠和琴

琴取者嘆先立蓋毛琴之下樋爾孀哉匿有

こゝれはなげきもさうさうとてこの志もいよつまやこわれ  
下樋ハ琴の後のうつろなるをとふくぐハ若とりてこゝ琴とこれハ  
先たけうぐハ下樋の中より一わつとまてこわれさうさうれくよう

芳野作

神左振磐根已凝敷三芳野之水分山乎見者悲毛

かみさふふいぬこゝきみうぬのみももやまをいれをかたし

古事記天乏水分神 川分云 神名帳吉野水分神社あり、かみし、むら  
いしをいふ

皆人之戀三吉野今日見者諾母戀来山川清見

みさしののこさみよぬげふみれがうべこいけやまのはさのみ

夢乃和太事西在来寤毛見而来物乎念四念者

いぬのわぶこけありけさうつふみてこものをおしひい言人は

夏のことこをむすの池より三島終久こあはれ夏のわぶこいさ  
又事よ言よこハゆ解は若しの河らよのみさく、もしよこハいんこ

そくすまそいん

皇祖神之神宮人冬暮嶺葛彌常敷爾吾反将見

ひかりのきのかみのみやひとまきつういんさうさうわのかみらみひ

皇祖神ハハきこれこハよつ代の天皇をさすもあれはもあさこふもハ一珠  
のさるハ別官人をさくはやと信へてはこいんさうさうさうさうさうさう  
いやさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



本生まはるとの傳ふ来ハ來の傳ちるべし一二のるハ物の初のつ女川と  
 をやくよればかくつしと字路川のすもりのささくわらわれまゝあつた  
 り人のまきよらんそのとこつみあうまきよんといふん本づみはよる芥とま  
 抄にこの句は字あらん程考へて室考ち吾ハ君のほちるんといひ  
 氏河字船令渡呼跡雖喚不所聞有之楫音毛不為  
 うちがらんをふねわつせをよとよじんまきよんをさるんかちのまきよん  
 うちがをわつせよとりまきよんまきよんまきよんまきよんまきよんまきよん  
 千早人氏川浪字清可毛旅去人之立難為  
 ちをやじとちがをわつせとまきよんまきよんまきよんまきよんまきよん  
 ちをやん物約たちつてまきよんまきよんまきよんまきよんまきよんまきよん  
 まきよんまきよんまきよんまきよんまきよんまきよんまきよんまきよん  
 攝津作

志長  
 流  
 誤

志長鳥居名野亭来者有間山夕露立宿者無為不十  
 志長のどをあやめくれがあやまやまゆはごうたしらやどいなるう  
 志長のどを物約和名抄河邊郡為奈、神名性豊島郡為奈都比古神社  
 え、いづれまのそんまご、有るふハ同國有馬郡の心  
 一本云楮名乃浦廻亭榜来者 クラマフキシレ そハやどハたぐいとといふかたハ  
 されがわらう  
 武庫河水尾急嘉赤駒足何久激沾祁流鴨  
 むこのそのみづをちやみうあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 むこの何ハ武庫水、あつてハ足楮  
 命幸久吉石流垂水水卒結飲都  
 のもとまきよんあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 神句やま、いづれまのそんまご、有るふハ同國有馬郡の心、垂水といふおハかた

ふあれど、津國のふれ、姓氏保、孝元天皇、中世天下旱魃、河井涸絶、于時  
阿利真公造作高樋、以垂水、四山、其之令通水、宮内供奉、御膳、  
其水の名、るくれ、たぐ、竹、命、と、  
多吉、在の、  
作夜深而穿江水、手鳴、松浦船、梶音高之、水尾早見鴨、  
さよ、  
仁徳紀十一年、宮川の郊原と掘り、南水と引り、西海へ入、  
と、  
悔毛満奴流、鹽鹿墨江之岸、乃浦回、從行益物乎、  
と、  
為妹、貝乎拾、等陳奴、乃海雨所沾之袖者、雖涼常不干、

い、  
ちぬ、  
い、  
あれ、  
目頼敷人、乎吾家、爾住吉之岸、乃黄土、将見、因毛欲得、  
め、  
あ、  
ま、  
暇有者、拾爾将往、住吉之岸、因云、息志、貝、  
い、  
仁、  
の、

い、  
仁、  
の、

うきやとわゆるうきやとていふ

馬雙而今日吾見鶴住吉之岸之黄土於萬世見

うまわめりくわのきつるまのきさのうきやとていふ

住吉のつらふりひての例也

住吉爾往云道爾昨日見之戀忘具事二四有家里

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

墨吉之岸爾家欲得奧爾邊爾縁白浪見尔将思

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

まきのふゆいふらまのきさのうきやとていふ

墨吉里

大伴之三津之濱邊乎打曝因來浪之逝方不知毛

おほののみのみつのなまへとていふ

おほののみのみつのなまへとていふ

おほののみのみつのなまへとていふ

梶之音曾鬚髻為鳴海未通女奧藻前爾舟出為等思母

かぢのねがのふもわらふあまのこめおまのあまのこめ

一云暮去者梶之音為奈利

住吉之名兒之濱邊爾馬並而玉拾之久常不所忘

まきののこのなまへふらまのきさのうきやとていふ

まきののこのなまへふらまのきさのうきやとていふ

まきののこのなまへふらまのきさのうきやとていふ

まきののこのなまへふらまのきさのうきやとていふ

並ラ豆

雨者零借廬者作何暇爾吾兒之藍干爾王者將拾

あめはふるかりがいつてふいつのまふあごのちぢしよたまをいふるまむ

あごハもろ志摩英虞那るれど侍者のなごとあごハもろ志摩英虞那るれど

次より河切とよあそいつのまふいつのひまふいつのまふいつのまふいつのまふ

~~~~~かくち~~~~~

奈吳乃海之朝開之奈嶽今日毛鴨磯之浦回爾亂而將有

なごのうらのあまげのたごちかきもまふいつのまふいつのまふいつのまふ

あまげハおれのあまげハおれのあまげハおれのあまげハおれのあまげハおれの

らんハ玉履海ねのさくしとらん

住吉之遠里小野之真襟以須禮流衣乃盛過去

すみのそのとやとをのまはらわてしるらんそのまのまのまのまのまのまのまの

大判 遠里小野住吉乃地名く襟以て摺れる衣の口と襟とをのまのまのまのまの

とよあそ志摩十六志摩住吉のまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの  
天武紀纂摺流衣とあるこれに

時風吹麻久不知阿胡乃海之朝明之塩爾玉藻乃奈

ときふうのふくまはしるあごのうみのあまの志摩はなまはるかちる

汝時の月の人んとさるははねのねのねのねのねのねのねのねのねのねのねの

~~~~~

住吉之奥津白浪風吹者来依留濱乎見者浄霜

すみのそのおまろ志摩わみかせよびまよらなまのまのまのまのまのまのまの

おまろ志摩はなまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

住吉之岸之松根打曝縁来浪之音之清羅

すみのそのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

霜一が霜とあるによる一四州おこのまのまのまのまのまのまのまのまのまの

霜霜  
ノ誤

飛とさのうまよひんやうたう

難波方塩干丹立而見渡者淡路島爾多豆渡所見

たふふたふとちりひなたちてみわたせばあつちのまふさづつわさるみゆ

羈旅作

離家旅西在者秋風寒暮丹雁喧渡

いささのやだびもあれはあまのせのさじきゆさぶふかりたきわいこ

いへさうつらあまをむせられてん

圓方之湊之渚鳥浪立也妻唱立而邊近著毛

まがののふちののちりなつたふもやしまさびいそふちのづくも

まとうるハ伊勢風を此の形浦者此浦地形似的故以為名也トあり

此の浦は海を渡る也ト云ふ巴也ト云ふはくはくやふとてたやのたを思ふ

誤也ト巴ニ

年魚市方塩干家良思知多乃浦爾朝榜舟毛奥爾依所見

あゆちかふ志ひひふさうちのうらにあまうくおねもあまうさうさゆ

あゆちハ和名抄尾張愛智郡阿伊知ト云ハ同國智多郡ありこの

浦ちり

塩干者共瀟雨出鳴鶴之音遠放磯回為等霜

しちひれいさふかふさうたつたつこのちりやこのあまうさうさゆも

二の句を川にちりうまいでうまあまは名ときこゆれとまのうまもいれむれむ

やうて共ハ干瀟雨のうまうまは揚のうまうまあまうさうさゆ

暮名寸爾求食為鶴塩満者奥浪高三已妻喚

ゆみかきふあまうさうさゆもあまうさうさゆもあまうさうさゆも

古爾有監人之覓衣丹摺牟真野之榛原

いさへまあまうさうさゆもあまうさうさゆもあまうさうさゆも





大御舟竟而佐守布高島之三尾勝野之奈伎左思所思  
おほみかねたてきからしたのまのふとのかちぬのたつこころいひゆ

和名抄近江高島郡三尾にあまの角野乃とよもあまの角野を  
かどせとしりまやささ此ゆせはそこたえんそは後登の人の言  
みくゆせよりまろくよるたしん

何處可舟乗為家牟高島之香取乃浦役已藝出来船

いつくあふたのろくくたのまのかるのうらゆこぎでるあね

考不満ともをゆりく

斐太人之真木流云雨布乃河事者雖通船曾不通

ひたひとのまきながるるとあまのかんこにかんとあねがよまぬ

ひびく賦役人斐陀国庸調俱免每里點匠丁十人といふ  
ちへは流のふより通のゆればあまのこころまるといふく

ハトのつた丹まのハトをこれハトのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

ハトのつた丹まのつた丹まのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

舟のかよまぬを言はかるみよしいのあまのまをささくこころあまのつた丹ま

霰零々鹿島之崎宇浪高過而夜将行戀敷物乎

あられあがしまのさきこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

あられあがしまのさきこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

あられあがしまのさきこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

足柄乃管根飛起行鶴乃之見者日本之所念

あしののほこねこえゆこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

あしののほこねこえゆこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま

夏麻引海上漣乃奥津洲雨鳥者簀竹臨君者音文不為

なつそいけうらまのあがのおきこころあまのつた丹まのつた丹まのつた丹ま



哭喪

好去而亦還見六丈夫乃手二卷持在靴之浦回宇  
よきまきしてまゝかへりみまきしものてまよもいふことばはまを

三四の句ハ福といふ人希の之好まきとまよとててて川へ

鳥自物海二浮居而奥津浪驟乎聞者數悲哭

いづれものうみよきおておきたるまよとてまよげばあもつかたひ

哭ハ喪の得るくべし舟のまよとて浪のまよとてまよとててて川へ

たづねてまよげりてまよての川へまよれり女麻多須辨奈古

朝菜寸二真提携出而見乍来之三津乃松原浪越似所見

あさなまきてまよかちまよててみつてみつのもつばらなまよててまよ

目まよててててててててててててててててててててててて

朝入為流海未通女等之袖通沾西衣雖干跡不乾

あさまよてててててててててててててててててててててて

万解七 廿四

舟門 池の入り口の池のたれまよててててててててててててて

網引為海子哉見飽浦清荒儀見来吾

あびまよてててててててててててててててててててててて

この句はまよてててててててててててててててててててて

のまよまよてて

右一首柿本朝臣入麻呂之歌集出

山越而遠津之濱之石管自迄吾来會而有待

やまこへてててててててててててててててててててててて

まよ十一あはれまよ遠津太浦まよまよまよまよまよまよまよ

記伊まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

大前月一...

大海雨荒莫吹四長鳥居名之湖雨舟泊左右手

おやうみよあけしちまきしとわづのどわおたのみちよよおねさつるまで  
まきぶらう樹のあま改まはけ集みまきし湖の字と多く用ひし  
をつるいれさ

舟盡可志振立而廬利為名子江乃濱邊過不勝鳥

ふねをそがしちりそしちりせんたごとのたまべしとぎがてぬのも

和名抄唐教云戕柯 賦柯二音漢 治抄云加之 所以整舟と云く舟つまげき取ま

本と十舟人の河がとつるといふたごははまよまきと云く名又の  
海の後へまや海中の名でほまへあぐど心舟まて治るとゆ  
ども海づのくまのちつぞおりのちまよまきと云くふねといふ

妹門出入乃河之瀨速見吾馬爪衝家思良下

いものがいでしとのうたのせとをわづらまづくしんかむらうも

按まきれ妹の出入見川のこたあわとあれは出入水河とまきと入出  
と下とをほくあをりまはれるかんとまきとわすれを妹のつ入出と

とつるまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと  
まきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと  
まきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと

白栲爾丹保布信土之山川爾吾馬難家戀良下

ましろのまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと

ましろのまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと  
まきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと  
まきとわすれとまきとわすれとまきとわすれとまきとわすれと

勢能山爾直向妹之山事聽屋毛打橋渡





濱清美儀爾吾居者見者白水郎可将見釣不為雨

はまきよのいそねわのされびみんひにあまとのみらんつちもせなくふ

此まはらも磯またどれはのちもいゆる見者そそいひくも後なるそ人の言は

奥津梶漸々志夫乎欲見吾為里乃隱久惜毛

おつつかもちしつくとみくほりわのするそものかくらくを

宮せろ志夫乎の三字水手の住まてややふこけるそしつづくゆる

らうてんげとちんといつうまはらふんまくほりらる方の隠れお惜しきとちん

奥津波部都藻纏持依來十方君爾益有玉將縁八方

おつつかもちしつくとみくほりわのするそものかくらくを

これまのちんは奥津波部都藻纏持依來十方君爾益有玉將縁八方

一云奥津浪邊波布敷縁来登母

粟島爾許枳將渡等思鞞赤石門浪未佐和来

あはれまたこせわしんとおれとあうのちあはれまたこせわし

是二むこの海とこせわしんとあうのちあはれまたこせわし

妹爾戀余越去者勢能山之妹爾不戀而有之左

いむよこひわこせわしゆけはせのやまのいとこいすてあるのとそ

はとそいすてあるのとそいすてあるのとそいすてあるのとそ

ゆとこいすてあるのとそいすてあるのとそいすてあるのとそ

人在者母之最愛子曾麻毛吉木川邊之妹與背之山

いとこいすてあるのとそいすてあるのとそいすてあるのとそ

まはらふんまくほりらる方の隠れお惜しきとちん

吾妹子爾吾戀行者之雲並居鴨妹與勢能山

わがまこにわのこいゆけはせのやまのいとこいすてあるのとそ

上の妹まこいゆけはせのやまのいとこいすてあるのとそ

うしやうしやうと云ふこと

妹當今曾吾行目耳谷吾耳見乞事不問侶

いむのあつりいまぞわがゆくののみごなわれのみごをこころいひてし

めのみごは月あいのみごをさうり妹のあつりいひてし

河べし梅よはあはくさのあつりいひてし

のうとらんほりてこふのせうりいひてし

あはしのひてあつりいひてし

足代過而絲鹿乃山之櫻花不散在南還來萬代

あてをぎていむののやまのせうりいひてし

室をち持統紀三年八月も紀伊國阿提郡

不阿提同紀天平三年のち阿提

ハレてとよしと、多麻ハを而取ふと

名草山事西在来吾戀千重一重名草目名國

なぐさまことああわわわのちのひんたぐさあな

紀伊名草山事西在来吾戀千重一重名草目名國

一重一重と云ふこと

安太郎去小為手乃山之真木葉毛久不見者

あづとゆくをよてのやまのまきのあつりいひてし

和名抄紀伊在田郡英多

伊名草野誰戸

つうするれハ此地名あづと

勢備捨山

玉津島能見而伊座青丹吉平城有人之待問者如何

たまつしまのくみりいませあをよ



三代実録玉出島神社とされづと傳ふべしむいづるにむとわてんが  
とるべし、うつし物語をよむに傳ふより、まよふ、物語にまよふべしむと

塩満者如何將為跡香方便海之神我手渡海部未通女等  
志印みいふせんとのわづみのかみうてわつるあまのやもぬも

ま十七まの珠のあまのおまうつる可あまのつてがづま  
とつあまのむをいけつづ海神の海神の神のまるとつて海神は  
こつし海神のまのつるまのつてはつて海神のまのつてはつて  
がこつて海神のまのつてはつて海神のまのつてはつて海神のま  
る、つての方便のほうまを海神のまのつてはつて海神のまのつ  
とつてはつて

玉津島見之善雲吾無京往而戀幕思者  
たまづもえてつよけつるわれつるやも海神のまのつてはつて

大世まゝえまゝ兼く兼くつるんとつてつてはつてはつてはつて

黒牛乃海紅丹穗經百磯城乃大宮人四朝入為良霜  
くろくのうみぐれなむあつてまのつてはつてはつてはつて

ま九紀伊國一幸の時後智の人のまのつてはつてはつてはつて  
よめり、まのつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて  
といふ、此まのつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて  
まのつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて

若浦雨白浪立而奥風寒暮者山跡之所念  
わつのうらたてをみたちておまのつてはつてはつてはつて

ま一あつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつて

為妹玉宇拾跡木國之湯等乃三埜二此日鞍四通  
いしづゝたたまをひろたまのつてはつてはつてはつてはつて

吾舟乃握者莫引自山跡慮来之心未飽九二

わづふねのかぢらつたよしきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

楫とあらうふつふつとかぢらつたよしきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

あつたよしきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

玉津島雖見不飽何為而累持將去不見人之為

たまづしまみれどもあつたよしきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

口の白つてよきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

綿之底奥已具舟卒於邊將因風毛吹額波不立而

わたのそこおきこころんかまのあひまのあひま

よせまのあひまのあひま

よせまのあひまのあひま

大葉山霞蒙狹夜深而吾船將泊停不知文

おほやたまたまかぢらつたよしきまそやまのよかこしこころんかまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

狹夜深而夜中乃方爾鬱之苦呼之舟人泊兼鴨

さよあけてよかこしこころんかまのあひまのあひま

よかこしこころんかまのあひまのあひま

よかこしこころんかまのあひまのあひま

斗能斗那加能伊文理おとろといふさまのあひま

神前荒石毛不所見浪立奴後何處將行與奇道者無荷

みわのさきあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

あひまのあひまのあひま

磯立奥邊字見者海藻釣舟海人榜出良之鴨翔所見  
いそふもちおきこへとみればめかりおねあまこぎづらうかもかけるみゆ

和名抄海藻 和名尔木菜 俗用和布 とまわめくものころとるく海への舟こぶ

らんとうらんわ

風早之三穗乃浦廻字榜舟之船人動浪立良下

かごころのみのうらまはとておねのふかむさわだかみくつこし

いかに伊人幸三に伊三穂石室のありま子五風子の浦とよめるハ

備及まくとくとらそんに伊み風あといつ代をかん人、おきよあよつこの

と載し袖の風をマヌとせりさるるおもひりまや

五舟者明石之潮爾榜泊字奥方莫放狭夜深去来

わのあねあいのをあふこぎたてんおきへたさのうらよあけよけま

と本明且石ともハ穂三之唐が且のまをさるとりとも、まもよ潮の字と用

いそゆるいそゆるハ湖の岸よりあいののころとらま、幸三の句枝の湖  
いそゆるいそゆるハ湖の岸よりあいののころとらま、幸三の句枝の湖

千磐破金之二崎乎過執吾者不忘牡鹿之須賣神

ちるやぶるかねのみさことまきぬらこれハわをれおののまあがみ

金のと唐筑お二金助之倭紀景雲元年八月筑前宗形郡大領外後六位下

宗形朝臣深津授外後五位下其妻無位竹生王後五位下並ハ被僧壽應誘

造金崎船瀬也とる、おののまあけハ神名帳筑前糟屋郡志加神社とあり、三

代格宗形神社修理料の賤代徳下と、同國宗形郡金崎造下十八人とあり

さくも解状と考ふ、おとくハ此金崎より彼糟屋郡の宗形神と奇つ

まも被此同體とれはかくよめんとわらへ

天霧相口方吹羅之水笠之崗水門雨波立渡

あまぎとらひむのこらうみづぐきのをのみなとまみからわらへ

いふ事申の方より吹風へ、古人の日中の南風をむかへりて、その  
のころハ神武紀十有一月、至筑紫、崗水門、仲哀紀八年、入崗浦到  
水門、和名抄筑前遠賀郡、仙史抄筑前國風土記云、塙舸縣  
之東側有大江口、名曰塙舸水門、室古云水荳ハ、つゝ、ききまとい  
詞あり、そのとて、なる物細く、をう、雅とをむるより、く、湯り

大海之波者畏然有十方神乎齋禮而船出為者如何  
おろふみのわみ、あう、く、志、う、れ、が、み、と、い、を、し、ひ、て、ふ、た、を、せ、い、の、よ

伝ハ、な、れ、と、抄、の、の、つ、み、な、り、ん、と、

未通女等之織機上平真櫛用橙上栝島波間從所見  
を、と、あ、ら、の、ゆ、る、と、の、へ、と、よ、う、く、か、げ、く、く、ま、な、あ、ま、よ、あ、ゆ

た、く、名、の、和、名、抄、出、雲、島、根、郡、多、久、と、ま、く、た、る、へ、櫛、白、く、ま、ま、あ、ゆ  
の、ま、よ、ら、ぬ、あ、よ、櫛、と、も、て、の、き、あ、く、と、ま、た、く、た、る、の、ゆ、ま、り、て、櫛、と

塩早三磯回荷居者入潮為海人鳥屋見濫多比由久和禮  
字

か、げ、く、く、と、い、ひ、ん、と、く、な、い、た、く、と、い、ん、の、布、は、

志、や、や、み、い、し、ま、し、れ、が、ま、く、と、あ、ま、や、み、ん、ぶ、い、ゆ、く、わ、れ、を

ま、り、と、ま、い、の、海、の、産、ま、ん、き、三、島、と、の、産、の、浦、ま、ま、き、の、あ、ま、く、く、い、ん  
と、む、れ、れ、と、い、う、ま、い、ん、ハ、潮、の、川、あ、ま、く、と、い、ん、と、宮、古、ハ、潮、ハ、潮、入、の、程  
あ、く、あ、ま、か、ま、く、い、ん、と、い、う

浪高之奈何梶取水鳥之浮宿也應為猶哉可榜

な、み、く、り、い、う、か、ま、く、と、い、う、つ、と、り、の、う、ま、い、ね、あ、ま、く、ま、か、あ、や、こ、く、へ、ま、い  
和名抄古抄、唐令云、袂抄、加知、度利、ゆ、ま、の、あ、く、ほ、ね、ん、や、り、こ、ん、や、ん

夢耳繼而所見小竹島之越磯波之敷布所念

い、め、の、み、よ、つ、ま、り、て、み、ゆ、れ、は、き、と、ま、の、い、そ、こ、と、な、み、の、志、く、く、あ、ま、ゆ

ハチイサハヨキ 海なるんぞいりや 和名抄海歌歌作作あれはとの  
海のもややまのりて 空き云ハハの 保よくつきていぬれハ作島のもや  
なるまーといつたら高ハ次よりある竹島あはれさうまー ことわざよ  
あつとまよかんくまねく せよといふこと浪なま〜といふん為のこ  
静母岸者波者縁家留香此屋通間乍居者  
志づけくもきりよはたみよゆたさるものいこりきつてをれた  
浪のよさるものあゆるちまがすゆ〜とあつとものさうりといふこと

小回しこのちの香ハ裁ハ

竹島乃阿戸白波者動友吾家思五百入 鮑染  
たりまのあつたらみよさわけもこれいりけりいりやんかかりみ  
も九言島之河波河まみハ派け〜まハ家よりさつていりみよて裁  
さうこれハ地はさるはさるはのゆでさの地名と裁ハ〜せ裁

王録字  
書通画  
上通下  
正有

大海之磯本由須理立波之将依念有濱之浄美久  
おがうみのいそもとゆららたつたみのよらんともくはまのさやん  
る根もゆられおくし波のま〜も浪の〜ま〜とやうてあうん  
しるるの序〜て舟を〜と舟の〜濱の清らなる〜といふ  
珠運見諸戸山矣行之鹿齒面白四手古昔所念  
たま〜けみ〜る〜とやま〜ゆ〜と〜の〜な〜わ〜ん〜て〜い〜ふ〜し〜む〜ん〜が〜ゆ  
む〜け〜ゆ〜は〜こ〜ろ〜と〜の〜備〜中〜ん〜た〜の〜あ〜ら〜ま〜は〜い〜ふ〜ち〜ち〜と〜  
おもひゆめ

黒王之玄髪山乎朝越而山下露雨沾来鴨

ねだるまのくろかみやまをたもこえてやましつゆよぬれなるとかも

黒王の山に下りてゆくといふやまのくろくもこえてのついでに東國の山あはれ

をいふまにやまをたもこえてつゆのたもつゆをたもこえて

足引之山行暮宿借者妹立待而宿将借鴨

あひきのやまゆきしやどからばいもらぬもくしやぬらんも

山あはれなつてくろくもこえてくろくもこえてくろくもこえて

くろくもこえてくろくもこえて

視渡者近里廻乎田本欲今夜吾来禮巾振之野雨

みやせのちのきこきとわをたむらひやいまぞわのこいひれあつぬよ

あつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよ

あつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよあつぬよ

綱元二  
作

未通女等之放髪乎木綿山雲莫蒙家當將見

なまぬらうのばわりのうみとゆいのやまくわあまらびさいのあつぬん

なまぬらうのばわりのうみとゆいのやまくわあまらびさいのあつぬん

なまぬらうのばわりのうみとゆいのやまくわあまらびさいのあつぬん

和名抄連見郡由布

四可能白水郎乃釣船之綱不堪情念而出而来家里

志かのおものつらきさあねのつわもくぞうこらよまひいていでまらな

志かのおものつらきさあねのつわもくぞうこらよまひいていでまらな

志かのおものつらきさあねのつわもくぞうこらよまひいていでまらな

志かのおものつらきさあねのつわもくぞうこらよまひいていでまらな

志かのおものつらきさあねのつわもくぞうこらよまひいていでまらな

吾妹... 遠く... 人場... 後の...  
 かち...  
かちる... あり... 人場... 後の... こと... いう... 壇... 壇... 壇... 壇... の

之加乃白水郎之燒塩煙風宇疾立者不上山雨輕引  
 志のあまの志ややくけむをかせといひたけつたのわづなやまのたきく  
志と煙の浦は志ややくけむかされはたきく山よと云ふこといふこと  
 雨くるとゆつたればのたけつたこといふこと

右件歌者言集中出

大穴道少御神作妹勢能山見吉  
おやのりむせしきくはえのの... こと... こと... こと... こと...  
 昔去大穴少御名のゆ... こと... こと... こと... こと...

與ハシ  
ノ誤

吾妹子見徳奥藻花開在我告與  
 わびたことみつたえぬんおきつもの... こと... こと... こと... こと...  
此事と名の... の花... こと... こと... こと... こと... の  
 こと... 與ハシの... こと... こと... こと... こと... の  
 こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... の

沼ヲ沾  
ニ誤

君為浮沼池菱採我深袖沾在哉  
 きみためうまぬのつけのひし... わづ... ぬれ...  
うまぬの... こと... こと... こと... こと... の... こと... こと... こと... こと... の...  
 うまぬ... こと... こと... こと... こと... の... こと... こと... こと... こと... の...  
 うまぬ... こと... こと... こと... こと... の... こと... こと... こと... こと... の...  
 沙土煮るとみく、空もな宇ハ泥へ及せのうま泥とくきといふこと...  
 こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... こと... の...  
 又神代紀立於浮渚在平処此云羽企尔磨梨陀毗邏而陀志... こと... こと... こと... こと... の...

企ハトシハコトヨシ

妹為菅實採行吾山路惑此日暮

いせがうめはまののみとるふゆくこれとやまらまをひいてこのひらくつ

山菅まうまつきのうまごられもるといふこ

右四首柿本朝臣人麻呂之歌集出

問答

佐保河爾鳴成智鳥何師鴨川原乎思努比益河上

さくがくふわうくわもちどやたのりのもかろを志ぬびいやくそのりる

わうゆとありて河原をまごあがしふもよ四

人社者意保爾毛言目我幾許師奴布川原乎標結勿謹

ひとこそおやもいもあわごたをぬぶかろを志ぬゆたゆめ

むんハわりもまいつふこれハ川原とろこなくおもいそやうごふも

万解七 三十七

のまごん此河原ハかけがはらるるとほふこれと志のふゆゆといふも

右二首詠鳥

神樂浪之思我津乃白水郎者吾無二潜者莫為浪雖不立

かむみのちのうつのあまハわれなりまがづまハたせそたよみたしと

まごつハ志望の大津江がまきもろとこのるるれハ我うろろの

かづまハせとといふこ

大船爾梶之母有奈牟君無爾潜為八方波雖不起

おらふねふかぢハあまのんきまもまがづませめやもたゆんこ

ちのちとけき初二句ハと君がおもゆる時よかづまハとんせ

むものど舟かぢもつとこ

右二首詠白水郎



臨時

寸まつけくよるるまゝに於敷きまらぬ

月草雨衣曾染流君之為綠色衣將摺跡念而

つきくさよころりぐそめるきみぢのめまじりのころもぢんとおひて

君がるは階伝子かてを摺んとく我れのみよそみまをい

摺れハ班らとそめるに染有るは伝まよそむとそめるといよハ

春霞井上從直雨道者雖有君雨將相登他回来毛

はるがらみののへわたぶみちあはきまありんとたれとわらくし

まもあまらく河井上ハ大和より河内までるたはちち道あると

たのちのころへまをいよと

道邊之草深由利乃花咲雨咲之柄二妻常可云也

みちのべのくさおけゆのなはあまよはるいけらふつまをいよと

くさ深ゆハ草深をいよとゆとまハ花の柄のきげみよける

咲ラ咲  
一様

可下者  
ハ析

默然不有跡事之名稱爾云言字間知良久波サ可有来

モ十七母太毛安良をいよと摺るはあまのけらふとわらくし

空をいよとわらくし可ハ奇の伝まよとあやハうけをわらくし

可の字も一ちをわらくしとよと

佐伯山手花以之哀我子鴛取而者花散鞠

取ハ手



ちまちまちとよまんといふ、花見なり

曉跡夜鳥雖鳴此山上之木未之於者未静之

あらしまじとよがらもなげどこのみねのこねのうらへいしきまじとつげ

男の別れんといふ時女のおもひもあつるべし、まじとつげ、おのほろひの  
といふのみん

西市雨但獨出而眼不並買師絹之高自許里鴨

にのいぢまたひらりといでめわもいぢかたりまじのおまじこちかじ

めたりいぢがハぢを葉よきたつてみめわさるべしといふらうへくくぐん  
ぶさめいかわらこまらのたまわいといふいぢが、梅もまじといふまじ  
て物も親いといふまじい、まじ他いぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい  
まじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと  
まじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

万解七 四十

今年去新島守之麻衣肩乃間亂者許誰取見

ことゆくふいしききわつらあきごるもかしのまじいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい

大宰府の防人司あり、西蕃の寇と防らん為、東の兵をつらまじいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢいぢい

あらしまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

云々 僧效博也といふらう、衣のやれぬぐもれらるといふ、梅もまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

あらしまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

ぬの唇衣同也、國はあし、まじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

といふるとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

大舟予荒海雨擗出八船多氣吾見之兒等之目見者知之

母

おぼろねとあらしまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

あらしまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいとまじいぢいと

思年  
 百師木乃大宮人之蹈跡所奥浪来不依有勢婆不失有麻  
 思年  
 右十七首古歌集出  
 兒等手守卷向山者常在常過往人爾往卷目八方  
 卷向之山邊響而往水之三名沫如世人吾等者  
 寄物發思

思年  
 百師木乃大宮人之蹈跡所奥浪来不依有勢婆不失有麻  
 思年  
 右十七首古歌集出  
 兒等手守卷向山者常在常過往人爾往卷目八方  
 卷向之山邊響而往水之三名沫如世人吾等者  
 寄物發思

隱口乃泊瀬之山丹照月者盈吳為鳥人之常無

こわくのはつせのやまのたねのつねにみづかきかけしをむくのつねたつ

月ハ盈吳ト云フ也イハルコトノ人ノ常ニ鳥人トシテ

仲解

右一首古歌集出

行路

遠有而雲居爾所見妹家爾早將至步黑駒

とほくありてくわおまみゆるいせくふをやくいこんあゆめくろてま

ま中四等條ノ云クもあまのつゆのつゆいこんあゆめくろてま

右一首柿本朝臣人麻呂之歌集出

旋頭歌

劔後鞘納野通葛引吾妹真袖以著點等鴨夏草荊母

葛引

たちのさやまのいづれもふくむくもまをてわきませてんを  
かまひくすもくも

いづれハ神名帳山城乙訓郡入野神社ハ劔のちの鞘と云いし下し

我子儀ハまをんてうまをりて夏草川といふたちのまをまをい

まをいハまの神といひ二のハ仲解ハ草ハ葛の字の得く古訓ハ

せり宮名も新ハ引の得く

住吉波豆麻君之馬乘衣雜豆臘漢女字座而縫衣叙

とみのえのわのみづまぎみあうまのりこりしとあつらふあやめと

あやめくもころあや

なみづまハよまのいしなみづまのいし敷うて地をのる馬衣古訓ハ

とあやめと云ハ麻仲ハうまのいしなみづまのいしと云ハあやめと云ハ

いとれき漢女ハ按ハ雄略紀身授村主青等共吳国使將吳所献手未才伎

漢儀其儀及衣縫兄媛等泊住吉津...  
あやめり所てさふつ...  
着のほ乗ハ垂のほ...  
かのかえ...  
任吉出見濱柴莫莉曾尼未通女等赤裳下閤將往見  
そのみ...  
のぬれ...  
二の向...  
向莫乘曾莉尼...  
萬解七 四十三

私秋 誤十九之  
住吉小田莉為子賤鴨無奴雖在妹御為私田莉  
らみのえれ...  
あまのこ...  
か...  
あ秋の...  
池邊小槻下細竹莉嫌其谷君形見爾監乍將惣  
いけのべ...  
みつ...  
竹の下莫...  
のまの

そくわん

天在日賣菅原草莫萌嬖彌那綿香烏髮飽田志付勿  
あめあまひめらふくらのくさむすぶかそぬみまのわくかぐろきかみよあ  
くらいつくも

あめあまひめらふくらのこの枕詞もいめ菅原は地名わろきよりねハ  
いれき菅原ハ天もあてよあしめらが原く物くられハ髪は茶の  
つとらふりやうしそハ天もあてらるのよゆのさひまもくまうけく  
りのみくとハハはははらるべハこのさく枕詞もかきさ髪及よハ  
もハゆ祥のミ那の下能の字と落せ

遊ヲ庭  
ニ誤

夏影房之下迹衣裁吾妹裏儲吾為裁者羞大裁  
なつかげのねらのさくふまぬらつわきしうらまけくわがくめし  
や、おがまたて

万解七 四十四

蘇立 なるがげの暑き日影とさくふまぬらつわきしうらまけくわがくめし  
へし迹とと本庭をゆきつはり、え唐をよよと改くうまけくハ夜の重と  
は後けんやわらふハ跡たきあ

梓弓引津邊在莫謂花及採不相有目八方勿謂花  
あづきゆみしきつのはなうたのうそのをわづむまてはあはさくめや  
たのうそのそわ

川津ハ統前ハキ十五引津亭船泊之作とわれハあまをさくしうまうハ川の  
へさハ引はのがたきしうらまぬらつわきしうらまのさくハ  
まがハあづきあんとやとまがまじもハキ十梓弓引はもさあとのさく  
まがハあづきあんとやとまがまじもハキ十梓弓引はもさあとのさく

撃日刺宮路行丹吾裳破玉緒念委家在矣  
うちひさやちをゆくふわがもいれぬたまのの、あかし志わつて  
えいれて





ゆいしやちあくとたしんかまへー

春日尚田立羸公哀若草壠無公田立羸

はるしちたふしつるきみにかわもわのしんたかみさ  
たふしつる

まきもの日記ひらき田んぼをれが北しん

開木代来背社草勿手折已時立錐榮草勿手折

やまのくせのやらのしんたかみさおのざときたしんゆい  
くまなれをら

ま十一しゆらちりくきり聖武化天平十七年正月より遷新京伐

山開地以造室ちしん林を築く材とてんま石はめられ開木よりやま

よび一代とまらしむ拾芥抄田籍初凡田以方六尺為一步と積

七十二歩為十代百四十歩為廿代と五十一代為一段式三代頭也とて

しんたかみさの日記ひらき田んぼをれが北しん

ま十一しゆらちりくきり聖武化天平十七年正月より遷新京伐

山開地以造室ちしん林を築く材とてんま石はめられ開木よりやま

青角髪依網原人相鴨石走淡海縣物語爲

あをみつらよみみのしらふいあまよいげのあまよあつこの

ものがごせん

あをみつらよみの日記ひらき田んぼをれが北しん

ま十一しゆらちりくきり聖武化天平十七年正月より遷新京伐

山開地以造室ちしん林を築く材とてんま石はめられ開木よりやま

よび一代とまらしむ拾芥抄田籍初凡田以方六尺為一步と積

七十二歩為十代百四十歩為廿代と五十一代為一段式三代頭也とて

あをみつらよみの日記ひらき田んぼをれが北しん

水門葦末葉誰手折吾背子振手見我手折  
みちよのあいのうらまをたれかしをかりわづせこころとみひらわれ  
ぞたを

秋の振の衣のきと後せうらまをうらまんとせん、振り人の淺薄かてお  
うせこころ神よりつりまをせんんとおのまをわうらまをうらまをうらま  
のれ、振中のおさへ、そのうち同をわや

垣越犬召越鳥獵為公青山葉茂山邊馬安君

かきこゆるいぬよびうてどかうらまをきみあをたまのそまをきやまへ  
うまやちめまきみ

空まら垣こゆるいぬ犬いん越鳥、かのかまのまをうらまをうらまをうらま  
ていり、まのそまをきせんちとまをうらまをうらまをうらまをうらまを  
うらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを

海底奥玉藻之名乘曾花妹與吾此何有跡莫語之花

わのめをておきりたまのたのありのまをわあれんそとあうて

跡の何所のなる

つこのそを花何所の程う、又ハ荷の程も、男女は遠く程も、  
そこのあをそく、岸のやうて、あをうらまをうらまをうらまをうらまを

此崗草薊小子然薊有尔君来座御馬草為

このそをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを  
みまをうらまを

然の下莫の字と薊せん、まのれうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを  
うらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを

江林次宗也物求吉白栲袖纏上宗待我背

えがやうんやぶるまやうらまをうらまをうらまをうらまをうらまをうらまを  
まやうらまを



今造斑衣服面就吾爾所念未服友

あしきまきまのころにたかきくわねおとせりまひんたしき

まじりのえはばをよよむかきまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

まじりのえはばをよよむかきまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

紅衣染雖欲著丹穗哉人可知

くれねあふころすあまきほりけりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

けりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

どろりおしきんよとせりまひんた

千名人雖云織次我二十物白麻衣

ちかふおしきんよとせりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

おしきんたかきくわねおとせりまひんたしき

寄玉

安治村十依海船浮白玉椽人所知勿

あぢむらのとよのふねうきしらぎのえりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

えりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

えりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

えりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

えりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

遠近磯中在白玉人不知見依鴨

とちのいそのなかのしらぎのひとしらずに見ゆりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

見ゆりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき

人の中よんよきれどおんよとあれしきんた

海神手纏持在玉故石浦廻潜為鴨

うみかみてふまきしゆりまひんたかきくわねおとせりまひんたしき



かまのさくらゆき...  
あはれ...  
つら...  
わたしの返き...

寄川

從此川船可行 雖在渡瀬 別守人有

この川をゆきね...  
さ人のゆき...  
うとが...  
寄海

寄海

大海候水門事有 後何方君 吾寧陵

おやうみ...  
大海とま...  
海を...  
とま...  
ゆき...

風吹海荒 明日言應久君 隨

か...  
と...  
か...

雲隱小島神之 恐者目聞心聞哉

く...



橘之島雨之居者河遠不曝縫之吾下夜

たらしまのままふしをればかゝるやみさきもすぬりわがまじいとも

橘の島大和之妻ニ橘の島のまゝといふは此のまゝといふもいふれ

と布さしき川に遠くたゞんきさきとあつたあつたさきさき

寄絲

河内女之手染之絲宇絡反片絲雨雖有將絶跡念也

かづものてぞめのいとまゝかゝるがこゝろあれたるんとおわんや

河内の女大和女雅伎女の歌にたへ河内よまゝとまゝとてとて

片染まじりてまゝとてまゝとてまゝとて

寄玉

海底沈白玉風吹而海者雖荒不取者不止

わこのそとまづくまゝまかせまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

齊齋  
二誤

底清沈有玉乎欲見千遍曾告之潜為白水郎

そきよよみまづけたまふとみまづほりちいそのまゝかまひいあま

とまひいあまのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

大海之水底照之石著玉齋而將採風莫吹行年

おやうみのみだりてとととまづけたまひいそのまゝかまひいあま

本ハ夢人又ハ行年とてまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

年の行ハ所の居まゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

わらわのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

水底爾沈白玉誰故心盡而吾不念爾





まらむとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
雨ハ氏の言の伝ちる人しまつてとらふまをまつてのこりハ信落る  
まのむとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
ゆりしむとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
えさむとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ

照左豆我手雨纏古須玉毛欲得其緒者替而吾王雨将為  
てるといふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
てるといふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
小字ちる街行且賣也自於也字鏡衛天良波 頃又賣とらふゆきのこい今女とを  
たる人かといふと思ひあるせうわがぬおせんといふまのむよはののみ  
おたりひとぞたまおほはらむ  
秋風者繼而莫吹海底奥在玉乎手纏左右二

万解七 五十五

あまのせうまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
秋のむかふるやとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
とていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ

寄日本琴

伏膝王之小琴之事無者甚幾許吾將戀也毛  
いざよふすたまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
琴とていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ  
かきんりのけりやとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ

寄弓

陸奥之吾田多良真弓著絲而引者香人之吾乎事將成  
みものこのあはらまゆみちらんけりひとぞたまおほはらむ  
是十四陸奥より女多良のわらふとていふまのむよはののみおたりひとぞたまおほはらむ

らうまの山にありて... 一平... 佐保山乎... 凡雨見之鹿跡... 今見者山夏香思母風吹莫勤... さがやまの山にありて... 凡二字... 山名... 山夏香思母風吹莫勤... さがやまの山にありて...

南流之細川山立檀弓束級人二不知所

みちのほそがやま... 檀弓束級人二不知所

南流細川山大和十布敷天武紀五年勅禁南流細川山並莫舊新... 檀弓束級人二不知所

つう和名抄釋名云弓束曰種 和美波敷 中央曰種 和美郡加 級系次第也

まゝあれはまゝと河べ... 檀弓束級人二不知所

後の傍感て及と上へつり... 檀弓束級人二不知所

もをりつり... 檀弓束級人二不知所

寄山

磐疊恐山常知管毛吾者戀香同等不有雨

いはたみかときやま... 同等不有雨

磐疊恐山常知管毛吾者戀香同等不有雨

いはたみかときやま... 同等不有雨

磐疊恐山常知管毛吾者戀香同等不有雨

いはたみかときやま... 同等不有雨

石金之凝木敷山雨入始而山名付添出不勝鴨

いはたみかときやま... 同等不有雨

磐疊恐山常知管毛吾者戀香同等不有雨

いはたみかときやま... 同等不有雨

佐保山乎於凡雨見之鹿跡今見者山夏香思母風吹莫勤

さがやまの山にありて... 凡雨見之鹿跡今見者山夏香思母風吹莫勤

於凡二字... 山名... 山夏香思母風吹莫勤

さがやまの山にありて... 山名... 山夏香思母風吹莫勤

ゆきよりしるれしつたん

奥山之於石蘿生恐常思情乎何如裳勢武

ねくやまのいさよこけじりかこけとねりよころといふのいせん

まに二のむくし甲くくかこくつあつてもおひあたくやありそ

おはせあういけいけかこれとんかきくとさるる

思贖痛文為便無玉手次雲飛山仁吾印結

ちひあまういさみたまごまきうねびのやまにわのまめゆい

ひ贖一本は勝とささうはかひいぬん塔のうんとまねくおわりの終

といくまうちのゆまの我れゆしりよとんくあつてもおひ

うねびあちあさちとちとちよあつてもおひ

寄草

久々隠春乃大野平焼人者焼不足香文吾情熾

万解七 五十七

ふゆこもはるのちほぬとやういとやさあぬりもわのころや

ゆきとく人のれい候とささみんといひこころいふ女のままこ

葛城乃高間草野早知而標指益乎今悔拭

かつらぎのたうまのかやぬとやまうとちめさすいまぐくや

ちやうくはけいしりてゆきのさん人と他一人もわいとあつ

はまはけいしりて成人と拭茂のほかちりうはまもやいと何べい

吾屋前雨生土針後心毛不想人之衣爾須良由奈

わのやんはあつちちちちちちちちちちちちちちちちちち

和名抄本草云玉孫一名黄孫和名沼波利文作あつて我れせ

よちゆいしちちちちちちちちちちちちちちちちちち

鴨頭草丹服色取摺目伴移變色登備之苦沙

つまひまふころもいりちちちちちちちちちちちちちちち

二誤  
様ヲ撰

紫絲乎曾吾様足槍之山橘乎将貫跡念而

むらさきのいとそわのあるあじぎのやまうちがねをさびて

様々を撰と云、え房をよらうて改むははくともうくともう

真珠付越能管原吾不灼人之新巻惜管原

まごまつくをちのきつらわのあひのからまへくそきまひのひら

まごつて地河越能大和言布致とまナニ志をてるとまきぬととまの遠

智の小差しよあるに述べにいれよとく人の心づか

山高夕日隠奴浅茅原後見多米爾標結申尾

やまのたみゆひかくれぬあさむらものちみんさめゆいしを

うらぬかられぬるたもをえてあひ別とてふいつと

らるる

二誤  
管ヲ撰

事痛者左右将為乎石代之野邊之下草吾之刈而者

ことごとくはさしせんといゆるのたのしむとくわてな

遠くへはるるのしけとくしせんといふがてが刈とて

一云紅之寫心哉於妹不相将有

くれちるよまらるるのくまのたのしむとくわてな

わらわしやとゆとていもいたしあのきん一とていり

真鳥住卯名手之神社之管根乎衣爾書付令服兒欲得

まごまむらなてのむらのまのねときあまかまつけきせん

まごまむらなてのむらのまのねときあまかまつけきせん

根の字のほつるまやのまのまの夜はゆくといふ

よはゆくといふまのまのまの夜はゆくといふ

よはゆくといふまのまのまの夜はゆくといふ



借るもかたはれは...  
とりかへり...  
ハムとよめ...  
淡海之哉ハ橋乃小竹乎不造矢而信有得哉戀敷鬼乎

あつみのやいせのよめとやはが...  
矢橋の小竹なれハ矢は...  
口の白さねありせんや...  
つま...  
あつめれて...  
万解七 六十

月草爾衣者將摺朝露爾所沾而後者徒去友

吾情湯谷絶谷浮萼邊毛奥毛依勝益士

わのこころゆふたゆふ...  
ゆふたゆふハたゆふ...  
和名抄萼波 旧奈 水草也...  
くわ、池子...  
石上振之早田字雖不秀繩谷延與守乍將居

寄稻

いそのか...  
石上布...  
とりて...

寄木

白菅之真野乃榛原心從毛不念君之衣雨摺

志らまのまぬのはまらららゆもおもひぬまきまがらもにまらぬ

まゆのまら原ま三ふけをま本ままららて敷れまの敷るまぬまらら

々一まハよ敷るわがまららら土計とまらまらら人のまのまらまら

真木柱作蘊麻人伊左佐目丹借廬之為跡造計米八方

まさばらつくるまらまらいさめふがらまらまらつくるまらけらまら

いさめハいさららまら八ま十一ま卒余のまといまらまらと河まらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

向峯雨立有桃樹成哉等人曾耳言為汝情勤

むあつをみたてるまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

足乳根乃母之其業菜尚願者衣雨著常云物乎

たらちねのまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

たらちねの樹何其業ハ借字まら園ハ者まら按まら河のまらなれまら河のまら

まら菜子まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

まらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

波之吉也思吾家乃毛桃本繁花耳開而不成在目八方



ちきまやーわぎのけりかへけくもたのみとまてだうさうめ  
毛桃ハ交子毛のおひくるさまもるるのるれりのさるるべーかへけくハ品名の  
あきとりのさへんのあきさけー

向岡之若楓木下枝取花待伊間雨嘆鶴鴨

むらのをのわのかつらのまきさづえさるるまついまふたがけまつるかし  
伊間の伊ハ後漢の、そ十吉柳のあのかゆとまねのさるれぬ伊間させん  
子しかもこしつる向、若楓の枝まきさづえさるるはのりまきえまけと、花  
を結ぶるの結遠まきとちかくとつひくかやとまきとまきと

寄花

氣緒爾念有吾乎山治左能花爾香君之移奴良武

いまのをにわへるわれもやまもこのたまあのかまひつらつらひぬらん  
そ十一山藁草のやあをさみうさうとさう和名抄 白藁草  
和名 漢語  
知哉

万解七 六十二

抄用藁草二字とて、園菜の終子裁入、是ハ草歌のちきま同、ふち

まといのまもく、まき彼ちやまひれは、山治とつらつらひぬらんは、本花ハ梨の

やして秋吹りもまき及人のいさるまこ、又和名抄、本草云賣子木 賀波知  
佐乃木  
字鏡賣子木 河知とま、これとあひくるあはるるー花ふのハ花はつらふのと

墨吉之浅澤小野之垣津幡衣雨摺著将衣日不知毛

はみののえのあまこハをぬのかまこつらまきぬよらまきんいさるま  
よと十七かさつらまき木折つけまらるるまきさるひ折らるる月まきまらるる

秋去者影毛将为跡吾時之韓藍之花乎誰採家牟

あきさるらハかけよしせんといわのまきかからああのをさるとこれつらへ  
韓藍ハ呉藍ニ同く紅葉ハ後漢のせんといつらまきまのよあはるる

云移ハ後の湯をくうつてせんとはせじへうつとハ湯をくうといふこと  
多あのみせんしおししそくが女と人とのつれとて

春日野雨咲有芽子者片枝者未含有言勿絶行年

かほののみさきたるはぎハかつつえハいままつてめりくハあつて  
やめてハつめくる此あよるのつこも何一人のあつてハ  
とわつたまゆふとぬとけ枝やふふてせめてえのハ  
をりんとわつたことゆ行年ハ所年の湯をくうとぬる人よりま  
つてハかたしとぬまのまへ

欲見戀管待之秋芽子者花耳聞而不成可毛将有

みま ほろこいつまらあきをまはちあのみさきとわつた  
花ハあつたまゆふとぬとけ枝やふふてせめてえのハ  
をりんとわつたことゆ行年ハ所年の湯をくうとぬる人よりま  
つてハかたしとぬまのまへ

吾妹子之屋前之秋芽子自花者實成而許曾戀益家禮  
わぎもこのやのあきははふたあよるの湯をくうといふこと  
伊の金も及多け増れるといふ

寄鳥

明日香川七瀬之不行爾住鳥毛意有社波不立目

あまののかわなせのよふもむじもあつたあつた  
あまののかわなせのよふもむじもあつたあつた  
あまののかわなせのよふもむじもあつたあつた  
あまののかわなせのよふもむじもあつたあつた

寄獸

三國山木末雨住歴武佐左妣乃此待鳥如吾俟將瘦

みくにやまのあまの雨もあつたあつた  
みくにやまのあまの雨もあつたあつた  
みくにやまのあまの雨もあつたあつた  
みくにやまのあまの雨もあつたあつた

祇名帳越前坂井郡三国神社より、ももやうハハハハとせきんむきび改子出  
 むきびハ小名をとらんて約やく、娘が身と待うせんて、将瘦ハ傍字の、  
 此ハ所文也

寄雲

石倉之小野後秋津雨發渡雲西裳在哉時宇思將待

いづゝのそめゆあまらふたぢりゝゝあれやごきそーまらん

林叶ハ左野ころも、石倉ハそこようと志をいゝ遠くそこまへくまわつてせんと  
 ころもころもらん、らん者ハ棟まわねけかほらあはれなるべー、ころもころも  
 ころも娘をとちやよとらゝつて、時とまらんころもらん

寄雷

天雲近光而響神之見者恐不見者悲毛

あまくりふちのくひのうゝくがふるうみのれがくころみねがわたのしも

かなたのけいしんをん厚むきんとあつてまうとくくころもらん  
 天雲近光而響神之見者恐不見者悲毛

寄雨

甚多毛不零雨故庭立水大莫逝人之應知

とびなづもふらぬあめあふらつてみじくくなゆきそいとのあまるべく

多毛ついでに水のいづこもくもく、雨降るにいらふたまふるあつてまふきく  
 毛多雨不零雨故庭立水大莫逝人之應知

毛多雨不零雨故庭立水大莫逝人之應知  
 久堅之雨雨波不著乎恠毛吾袖者干時無香  
 いさかのあめよ、まきぬとあやしくもわごころあが、いさかとれんあいの  
 候よりあへぬとよあるのみうゝ魂を命あよあけが、ちまきういさまき、ういさ  
 にも別神のうすをれが、ちまき袖とちま

恠  
 毛  
 毛  
 毛

寄月

三空往月讀壯士夕不去目庭雖見因縁毛無

みそらゆくとまよみをもとほしむるもめふれどよるよもわ

月夜疎とらしむるも月のおくたをまのてまののそかて人の

まけりうらむるもよめあはゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

春日山山高有良之石上菅根將見雨月待難

かひのやまやまのののののののののののののののののの

ゆとまのののののののののののののののののののののの

ゆとまのののののののののののののののののののののの

ゆとまのののののののののののののののののののののの

ゆとまのののののののののののののののののののののの

ゆとまのののののののののののののののののののののの

闇夜者辛苦物乎何時臨吾待月毛早毛照奴賀

やみのよはくもきものときつとつとつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

朝霜之消安命為誰千歳毛欲得臨吾念莫國

あさきものけやまののちたがらめふちせもがもとわがわはるふ

はるふもき命とあまかたけりハ誰があつとつとつとつとつと

つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

右一首者有譬喻歌類也但闇夜歌人所心之故並作此

歌因以此歌載出此次 此歌のちよあつとつとつとつとつと

人のあつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと

寄赤土

山跡之宇陀乃真赤土左丹著曾許裳香人之吾乎言將成

著不若  
ウ版

やまのうだのまゝのきよいばそこののじよのあといつたさうし  
著の下一本者のまゝとすしんさハ後法志のまのまゝとすしんさ  
もくは結れるまゝそれとや人ののいさゝんとすしんさ

寄神

木綿懸而祭三諸乃神佐備而齋雨波不在人目多見許増  
ゆよけりまつるみらるのかんさびていむいあらがひいあかやこそ  
けいしんさ地あるまゝ神の社といふな神さびといふ人席のいけりこ  
こりていしんさいあぢい人のまきれまをうねこいささう  
木綿懸而齋此神社可超所念可毛戀之整雨  
ゆよけりいむあわもこるあぐくおわがゆるいひの志をさふ  
借まゝまゝにつまこるまゝとすしんさまゝとすしんさ  
汁のいさゝとすしんさまゝとすしんさ

寄河

不絶逝明日香川之不逝有者故霜有如人之見國

たえぞゆくあまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

あまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

やういあまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

明日香川湍瀬爾玉藻者雖生有四賀良美有者靡不相

あまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

あまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

あまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

廣瀬川袖衝許浅乎也心深目手吾念有良武

ひろせうはそがてばあまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ

あまのあかめめくらゆちうもあさひとのみさくふ





あまのこなきうらやまがせまもくもくもやんかんとくともかたし小  
人のとはげうもくかよわげふあよとちうていづうまほくもくとくもく  
けまうしひげもくかあや

朝天子 藝雨来依白浪欲見五言 雖為風許增不令依

あさかきふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ

寄浦沙

紫之名高浦之愛子地袖耳觸而不寐香將成

むらさきのなうらのうらのまふらふまふらふまふらふまふらふ  
ひらひらの物ゆまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
邑のゆま紫のまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ

間ヲ問  
誤

松のふらわらげ打考べしまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ

豊國之間之濱邊之愛子地真直之有者何如将嘆

こよふのまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
和名抄豊前企救郡あまの國を同くまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ

寄藻

塩満者八流礖之草有哉見良久サ久戀良久乃太寸

まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ  
まふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふまふらふ



奥浪依流荒磯之名告藻者心中雨疾跡成有

おきらけみよらるあかりのたのうそくころのうらみごとくたうらう

まのうらみさるれとくさるさるいさぐてんの中へ解知りしれ又ハ

痲ハ知のよの候きくまうらううられされ成有とさうさかと門んし

いづべやのまふもむやまいとなれと門べれども後うらうらげ疾跡

成有四字法字かりん推考へ

紫之名高浦乃名生藻之於磯將麻時待吾字

むらさきのなうらのうらたのあされいそまなびのんきまつこれを

妹さくくちちびうら河とわさうらうらまとのをハ伽羅

荒磯超浪者恐然為蟹海之玉藻之憎者不有字

あうらうらなみハかろまうらうらふらふのくまものふくハあらぬを

女の父母ハいさしれどもいさしれどもいさしれどもいさしれどもいさしれども

字ヲキ  
ニ誤

手とる一わまよりと取つ大巻山并書對照表

寄船

神樂聲浪乃四賀津之浦能船乘雨乘西意常不所忘

かのなみのなつものうらのあふのうらうらつねわらえむ

かのをらうといらん岸まへを喻とまきてるむむ妹がうらのまんのよ

てあまやうれぬ

百傳八十之島廻宇榜船雨乘西情忘不得裳

ひつしやまのままはとくよねのうらうらうらうられぬつと

るつしは船でそのゆいさうのゆいとらふかのをうらうといらん岸まの

こハたとい

島傳足速乃小舟風守年者也經南相常齒無二

しまつしあぢやのよぢねがせまのうらうらハかろあつとハたうら

よふさびの海浪しこしこ音どあそや、疾舟とまわしとどき  
あとのこいつ

水霧相奥津小島雨風乎疾見船縁金都心者念抒

みかきぎらうおきゆいなんふたりよりいっしよとまきまゝくへまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

とあう、ゆつせもききと、風まゆのくわとよりいっしよとまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

とあう、ゆつせもききと、風まゆのくわとよりいっしよとまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

殊放者奥従酒嘗湊自邊著經時爾可放鬼香

いっしよとまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

とあう、ゆつせもききと、風まゆのくわとよりいっしよとまきまのい

許等の海は向かうにおきまゝ、可まきけりて、隣より、舟とまわしとどき  
あつてまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい  
わらへく、まきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

旋頭歌

三幣帛取神之祝我鎮齋杉原燎木伐殆之國手谷所取奴

みぬさとる、みぬさのけり、あつてまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

いっしよとまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

三、幣帛、取、神、之、祝、我、鎮、齋、杉、原、燎、木、伐、殆、之、國、手、谷、所、取、奴

みぬさとる、みぬさのけり、あつてまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

いっしよとまきまのいなんふたりよりいっしよとまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

とあう、ゆつせもききと、風まゆのくわとよりいっしよとまきまのい

いまきしよ、奇明紀のあまあそのかは、降羅羅羅羅都くゆくづのこ

さうりといふは、さうりといふは、原と採んとて、採りては、つれづれ  
て、さうりといふは、さうりといふは、採りては、つれづれ  
し、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ  
採りては、つれづれ、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ

挽歌

雑挽

鏡成五見之君乎阿婆乃野之花橘之珠爾拾都

かみかみわがみきみとあけのぬのものをらばるのさうりつ  
採りては、つれづれ、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ  
採りては、つれづれ、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ  
採りては、つれづれ、採りては、つれづれ、採りては、つれづれ

靖野叫人之縣者朝時君之所思而嗟齒不病

あきつぬいよのかくれあまきりまきのおんをさうりては、つれづれ

秋津野雨朝居雲之失去者前裳今裳無人所念  
おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ  
おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ  
おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ、おのれは、つれづれ

あきつぬいよのかくれあまきりまきのおんをさうりては、つれづれ

隱口乃泊瀬山雨霞立棚引雲者妹雨鴨在武

あきつぬいよのかくれあまきりまきのおんをさうりては、つれづれ

狂言香逆言哉隱口乃泊瀬山雨廬為云

大葬の陰とて、大葬の陰とて、大葬の陰とて、大葬の陰とて



漆ハ漆ノ誤

鶯枕相卷之兒毛在者社夜乃深良久毛吾惜責

鶯枕ウヱマシ相卷アヒマキ之兒毛コシ在者社アハ夜乃深良久ヨシ毛吾惜責ウレ

玉梓能妹者珠氈足氷木乃清山邊時散漆

玉梓タマシ能妹ノイモ者珠氈シマツ足氷木シバキ乃清山邊キヨヤマノヘ時散漆トキシ

承和七年五月辛巳後大上天皇顧命皇太子曰予聞人没精魂飯天而存冢墓鬼物憑焉終乃為祟長貽後累今宜辭骨為粉散之山中於是申納言藤原朝臣吉野奏言昔于台稚茂皇子者我朝之賢明也此皇子遺教自使散骨後世效之是親王之事而非帝王之迹云云これ大英云あり

骨を散りきりて、埋むるや、此大英云、ちきりて、これハ宇治新巻に、  
此ハ世の傳へん、志のれど、いひ傳ふるハ、世中、あふねく大英、  
るのひろまり、骨を散らむる、そのまゝに傳へ、古く宇治々々のま命、  
ねむるも、いひ傳へる、これハ後世效之といふ、骨を散らむる、  
の骨と知さる、漆ハ一本漆と云、漆の傳へる、漆ハぬるといふ、

万解七 七十四

或本歌曰

玉梓之妹者花可毛足日本乃此山影雨麻氣者失留

玉梓タマシ之妹ノイモ者花可毛ハナカモ足日本タラシ乃此山ココノヤマ影雨カゲアメ麻氣マキ者失留ウレ

羈旅歌

名兒乃海宇朝携来者海中雨鹿子曾鳴成何怜其水手

名兒ナニ乃海宇ウミウチ朝携来者アサニケル海中雨ウミノアメ鹿子カシ曾鳴成ナリ何怜其水手ナニカミ

名この海、よき位者よあり、鹿子ハ信、あましく、水手ハ、鳴、喚の字の誤り、

かこよふとあるとよとび一十五巻分、外なきと舟ととせんと、如人毛鹿子毛  
許惠故紙ととよとび

近水楼

萬葉集卷第七

010190519185

